

花巻リノベーション構想策定委員会第4回公開会議（オンライン）議事録

- 1 開催日時 令和2年12月17日（木）17:30～
- 2 開催方法 zoomによるオンライン会議
- 3 参加者 委員17名、関係者・事務局等14名、一般参加者19名、計50名

番号	名前	役名	所属等	参加
1	小友 康広	副委員長	(株)花巻家守舎	○
2	木村 直樹	委員（策定部会）	花巻建築士会事務局	○
3	清水頭 聖子	委員（策定部会）	(株) BonD Planning	○
4	長井 謙	委員長	副市長	○
5	松田 英基	委員（策定部会）	財務部長	×
6	中村 良則	委員（策定部会）	都市再生協議会長	×
7	上田 直輝	委員（策定部会）	花巻青年会議所直前理事長	○
8	青木 純	委員（策定部会長）	(株) まめくらし	○
9	竹内 昌義	委員（策定部会）	(株) エネルギーまちづくり社	×
10	山崎 満広	委員（事業部会長）	一社) クリエイティブシティラボ	○
11	遠藤 元治	委員（策定部会）	富士大学経済学部教授	○
12	高橋 潤吉	委員（事業部会）	花巻商工会議所青年部	○
13	伊藤 直樹	委員（事業部会）	(株) 花巻家守舎	○
14	高橋 久美子	委員（事業部会）	(株) 花巻家守舎	○
15	福田 一馬	委員（事業部会）	(株) 吹張家守舎、(株) ぼうけん	○
16	高橋 智彦	委員（事業部会）	花南水道土木(株)	×
17	伊藤 俊樹	委員（事業部会）	(株) 大一土地	×
18	葛巻 徹	委員（事業部会）	NPO 花巻市民活動支援センター	×
19	照井 智子	委員（事業部会）	一社) ココアルバ	○
20	佐々木 江美	委員（事業部会）	SS 建築デザイン室（有）	○
21	似内 一弘	委員（事業部会）	一社) 結学舎	○
22	茂庭 裕之	委員（事業部会）	(株) 吹張家守舎	×
23	平賀 恒樹	委員（事業部会）	ファームプラス	○
24	土屋 昌美	委員（事業部会）	ツインズ（創立）	×

4 顛末

（氏名・敬称等略）

（1）事前案内

事務：伊藤）名前の変更とカメラのオンをお願いしたい。本日の会議では、写真を撮るのであらかじめご了承ください。

（2）開会（進行：照井智）

照井智）司会をすることになった照井です。これより花巻リノベーションまちづくり構想策定委員会

を始めます。ではまず委員長長井副市長よりあいさつ願います。

(3) 委員長挨拶

長井) こんばんは。年末ご多忙のところ感謝。今日の会議のトークは停滞させずに勢い増して、みなさん、雪降っていますけどあったかい雰囲気で行っていきましょう。

(4) 状況報告

伊藤) 今回で第4回目、雪が降って、時間の流れ、季節の流れを感じている。前は10月23日開催。それ以降のまちなかの状況を報告する。

今の広場のイルミネーション「ヒカルヒロバ」は12月27日まで開催。また、上町商店街と吹張町商店街でGoTo商店街をエントリーしており、現在審査待ち。

佐々木) カゲツドアーズについて。おかげさまで少しずつ展開している。2回目のリノスクの案件だった。この10月にジュエリーおくやまさんが利用し、12月からは暮らし再生室に3名を配置。ここに常駐、毎日営業している。キッチンはまだだがサロンは使えるようになった。

伊藤) ヨガのレッスンなどにも使われている。建物にもしっかり断熱が施されて温かくなった。

次に、こちらは2019年リノベーションスクールの案件だった金野歯科医院跡。

木村) リノベーションの案件だったが、自分の事業でさせてもらっている。窓が少ないが、採光はとって改修しグループホームひとしずく(GH)として11月から稼働している。半分(株)Timberamに貸している。入口が木目調とそうでないものがあるが、(正面向かって)左がティンバラ、右がひとしずくのGH。7名の定員に対して、オープン当初は6名。今日7人目の体験の方が来て満床になるところ。特徴として、鉄骨の建物だったが、断熱するということで、(表示されている写真に)小舟渡の写真も混ざっているが、床に断熱材をスタイルを張っている。2階の床にも張っている。1階にも10センチの断熱材を張っている。

2階がデッキプレートで、ベランダ、外まで出ており、熱が出て行っちゃうので、断熱を入れている。

これも鉄骨でできているので、グラスウールを詰め込んで、15センチの断熱。

サッシはトリプルサッシ。GHも、ティンバラさんにも好評いただいております、半袖で作業しているほど。興味があれば来てもらいたい。管理人は、この建物の奥に私の弟が住んでいるが、その奥さんが管理人をしている。

伊藤) 半袖で作業しているのはすごい。次は福田くんをお願いしたい。

福田) 風人堂さんがゲストハウスのリビングをキッチンを含めてレンタルする形で、ショップインショップで営業している。11月上旬から始まっている。

本棚を月貸しで、本を売ったり珈琲やったり映画や音楽、マルカンの短編映画とかをやっている。まだ走り出したばかりだが、1月からランチを始める予定。気軽に立ち寄れる場所になるかも。実は吹張家守舎の案件一号。吹張家守が風人堂をサポートして行った。

meinnとしては、高校生の方々が来てくれて、来年の1月19日に花巻東高校の学生が中心となって、勉強合宿会をmeinn貸し切りで行う。ゲストハウス事業はコロナの影響で苦しいが、なんとか、できることでやっている。

伊藤) じつは10月31日の政策コンテストから高校生の動きが始まっている。今回の福田さんのところもだが、J Cの藤田さんから、今度やるガチャの話をしてもらっていいか。

藤田(関係者) 10月31日に政策コンテストを開き、花巻東高校、花巻南高校、花巻青雲高校の学生

に来てもらい、RESAS から数値をとって、政策コンテストを行った。

その中で青雲高校のガチャガチャの政策提案があった。バスで飲食店を回る内容、ガチャガチャカプセルの中にバス券と、B型事業所で作ったバッヂを入れて500円。飲食店の応援も含めている。政策コンテストで一位になった後、JC担当に、ニューデイズでガチャガチャの無償提供とスペースの提供をさせていただきたいとJRから連絡があったし、青雲高校からも伝えられた。直接、大手から連絡があった。契約関係を結ぶことは高校生はできないので、JCの小國奎馬君、星が丘でほめのば学習塾をやっている彼がやってくれている。彼が大人として、大元となってJRとの契約を結んで、高校生が作成したガチャガチャというのを実現。23日に記者会見。スタートについて詳細を。

小國：関係者）改めて、青年会議所の小國と申します。ほめのば学習塾という小学校から高校生までを対象にした塾をやっている。青雲高校の件だが、12月23日にオープニングセレモニーを行い新聞記者などにこういうことをやる、ということをお知らせする予定。ぜひ応援を。

伊藤）ありがとうございます。高校生メンバーの佐々木さんから、12月23日10時に、JR花巻駅でオープニングセレモニーを行うと、たった今連絡があった。頑張ってほしい。

そして、12月20日には「こもれば朝市」が高源上町ビルで行われる。月一でやっている朝市で、前はコロナの影響でお休みした。屋根があるところで、野菜やそれ以外のものも、おいしいものもある。ガッツさんのカレーも出る。カレー以外のものも出す予定？

平賀）ちょうど雪が降ったので雪下ニンジンを用意している。

伊藤）楽しみ。スライドはないが、遠藤先生から富士大の動きを。

遠藤）来年度後期に富士大学で「地域活性化論」という授業を行う。公開講座にして、地域創生論は地域を特定せずに行ってきたが、来年は花巻市に特化した形の地域活性化論を追加していく。再生室と青年会議所と相談中で、学長はじめ、SDGs専門の吉田先生とやっている。ESD（education sustainable development）の講師や、吉田先生が全国のまちづくりの講師を呼んでくるというイメージ。市からはリノベーションや移住定住の話をしてもらったり、あとは実際にみなさん方リノベーション事業者から話を伺いたい。授業の90分は学生向けに行うが、その後に1時間くらい、情報交換や、地域の事業の話をする予定。

吉田先生からも補足あれば。

吉田：関係者）富士大学の吉田ともうします。何人かには話しているか、遠藤先生の言った通り。まずは、どういうものするかというと、みなさんのプレゼンを60分位学生向けに。それが終わった後に、講師の方や（何かを）やりたい方と質疑。お金の話などもセッションで。道路の問題なども。込み入った話を1時間ほどディスカッションして、地域の事業者の方たちと一緒に話す。集まる方はある程度限って、リノベ事業者や青年会議所、商工会議所、市役所の若手、で集まって実のある話をしたい。これは活性化論の大きな目的。ぜひ参加してほしい。長島町の地域活性化の方なども候補にしている。

伊藤）ありがとうございます。次に照井智子さん。

照井）障がい者のサポート事業を行っている。新しく作業所として建物を借りた。町から離れて西に進んでいるが、若葉町から西の西大通りに一軒家を借りて、今は訓練所としての機能だったが、B型作業所を始めるために大きな所を借りた。

伊藤）はい、さまざまな動きが展開しています。報告は以上です。

（５）協議

照井）それでは本題に。ケイ子さんに戻します。

伊藤）はい。お渡しした資料に基づき説明します。今回は、民間実践者主体でビジョンと戦略を描くという趣旨で、リノベーションまちづくりビジョンブックというのをまとめている。冊子のタイトルは仮。

イラストについて。これまで会議やまちなかの実際の動きを要素に組み込んだ。キッチンカー、ヒロバ、スロープがあって、まちを楽しんでいる。色んな主体がまちの中で楽しんでいる。真ん中に神輿。花巻は祭りの好きな人が多く、まずは９月の祭り開催日程から一年のスケジュールを決める。リノベーション事業や、思い思いの仕事をしながら、好きなことをしていて、うまく組み合わさっているまち。現代にあわせた仕事のしかたや暮らし方が凝縮して存在し、地域の中心になっている。

右下にはキャプション。これは概要版としている。

左上に仮タイトルを示した。これをこのとおり印刷するかは別だが、どういうフレーズが合うのか、これから詰めたところ。

この構想では、新しい価値提案を作っていくことを核においた。それを実践するひとの顔写真を仮置き。人の顔が見えるようにしたいが違う形でもいい。まちを動かすのは人の手、考えて、ここで動く人たちから全てが起こり、地域の要素に紐づいていくイメージ。紐づきの根のように表現して、根っこがリアルだが、こういった資源や概念、意思の強さが土台となって、なりわいとカルチャーの２軸をキーワードとした。

なぜこの言葉になったか。

いままでやってきたリノベまちづくり５年間の取組から、事業継承や今まで見たこともなかったような事業、おもちゃ美術館だったり、リットスタイルもビール屋さんがクラフトもやるみたいなきことが起こり、また、産業が地場で連携していることが見えてきた。例えばバダローネさんは、資源を組み合わせてサービスを提供し、それを生産者につなげて返している。こういったことが顕在化してきた。町のなかで、違う形のなりわいが起こり、同時に働いているだけじゃなくアイデンティティを持ったものがあり、新しい形での住まい方、住むことのなかに仕事やビジネス、もっと深い意味としてのカルチャー発信が起こっている。カルチャーという表現は、伝統を受け継ぐというと固く狭い気がして。いままでやってきたことを昇華して作っていく、いままでのものを大切にする言葉として選んだ。リノベは新しい価値を入れると同時に、いままでのものも大切にしていけるスタンス。目に見えないものも大切にしていける。新しい世代に向けたメッセージ。これまでやってきた話の軸をこのように表現した。

真ん中の木、まちの中の大木を育てて次につなぐ。それをやるには、真ん中に公民連携、行政と民間の連携が必要。それらが結びついていくこと。幹が、根が広がっている、と。地域のポテンシャルについては、佐藤直樹さん、岡崎さん、青木さんほか、過去にお話しいただいたこと。それぞれをポテンシャルとして記載している。

この木を育てていくためにどうするか。これは歯車のイメージ。行政は大きいけどゆっくり。民間事業者は早いけれど小さいものが沢山散らばっている。行政の歯車のメリデメリを理解し、民間の小回

りが利いて早い歯車に的確に力が伝わるということを組み合わせて、全体として回っていることを
つくり上げていく。それぞれの得意なことを再編集していくイメージ。

行政としてすぐできることはステップ1。

だんだん大きな動き、どういう状態で、これからやりながら作っていくか。その話についてはもう少し
し時間が必要でこの構想には具体を載せられないかもしれない。なので今後、プロジェクトを作りな
がら進めていくにあたってその方向を示すのが、ステップ2と3。

イラストの追加的要素についていくつか提案がある。

現段階ではまちと田んぼが近いので、田んぼを少し郊外におくこと。山合いに農業や一次産業資源が
ある。まちなかには、神輿だけでなく鹿踊りもある祭り。その周り、まちなかは地域の資源を使っ
ていろんな過ごし方が出来ている。3人組の音楽。サックスの人は車椅子のひと、そういう方も社会
に参画している。カゲツドアーズ前で高校生がプレゼンしていたりする。建物の奥にひとしずく、手
前にはスケートボードをしているお兄さんと手を振っている子供たち。盲導犬連れの人が道を聞いて
コミュニケーションをしている。

イラストに入れる入れないは別として、どういうシーンがあったらいいか、要素とアイデアを決めて
いきたい。

川島(関係者) 完成のページイメージはこのとおり。現場感が分かる構成に。完成前のリノベの写真
も入れるかもしれないが、片側に写真。そのページにはケイコさんの説明文、左には事業者さんの思
いの部分を入れることを検討中。絵については、何かを入れたら何かを消すというレイアウトが必要。

伊藤)ここまで説明。チャットなどを含めてフリーでディスカッション。まずはイラストの要素から。

福田)ケイコさんの追加エッセンスがいい。花巻に住む人の暮らしを全部乗せるのは無理があるけど、
こういう風景があったらいいよね、が載っている。私ならこんな感じになりたいというのが浮かんで
くる。

遠藤)マルカンのこの絵では奥にあるのは駅？

伊藤)手前からリット、メイン、マルカン、アーケードとカゲツドアーズ。

遠藤)リノベ案件がのっているんですね。花巻病院もあるよっていうのはダメか？都市再生のエリア
であればと思って。

伊藤)なるほど。伊藤直樹さんのおっしゃるアウトドアもイメージにある。葡萄畑から川べりのワイ
ン飲んでBBQのシーン。川の上流には釣り人もいる。でも、デザイナーさんのレイアウト判断によ
る。亮さん、キッチンカーのこと教えてください。

高橋亮(関係者) 今年の夏にキッチンカーを買った。店に来られない人がいるし、外で日常を元気に
したくて、元気を発信できる装置になればと思って作った。このイラストにキャンプというのはどう
か。テントの絵とか。日常でキャンプできる場所があると面白い。

伊藤)マルシェしているのとは別で、三角の泊まるテントのことですね。

川島)キャンプは山？川？

高橋亮)川の周りにテント張れるとうれしい。

伊藤)プロムナードの周りをキャンプ場にする案がスクールで出ていた。サウナという意見もありま
すね。

中島) 日常を元気にするキッチンカーがすごくいい。それって絵で表現できますか。

高橋亮) 保健所に相談して食堂許可をとった。ちょっとした店舗よりも広い厨房。これまで2回、グルージャに呼んでもらってハンバーガーを出した。そのうちビールも出せれば。キッチンカーはシェアできる形で、使いたい人がいたら貸せるようにしたい。あるものは渡して、ないものは借りて、という形でやっていくことになるのではないのかなと。

伊藤) イラストの要素は年内に締め切りたい。意見ください。

今日決めることは、戦略についてと、みなさんがこれからやろうとしていることがここに入っているかどうか。キャッチーなフレーズにどうつなげていくか。みなさんの言葉、みなさんの事業展開のものとなっているかどうかについて、意見をいただければ。

照井(参加者) 意見よろしいか。大学の学食から参加中。多少うるさいかも。資料を見て、感じた事。ターゲットについて、最終的にだれのためになるのか、誰がターゲットになるか。

伊藤) このビジョンブックは、好きなことをしてまちを楽しくする、魅力的に変えていくというビジネスが始まってきたので、それを感じて同じように取組もうと思う方々がターゲットになるということと、あと、それを応援してくれる方々を増やす、ということを目的にしている。もう一つ、「リノベーションまちづくりが分からない」という方々に対しての説明。こういう手法は特別なことではないし、思いをもって取り組んでいるんだということを分かりやすく伝えられるものとしての冊子にしていく予定。

照井(参加者) チャットにもあるけれど、参加するまで全然知らなくて、「新しいお店ができてるな」位だった。高校生のときから知っていれば良かったと思っている。学生や若い世代への発信をもっと徹底してもらいたい。

水上(関係者) これを見た瞬間、花巻いい感じって思えるか。どう思った？

照井(参加者) パッと見、難しいこと書いているという印象受ける。個人としては、将来は花巻に戻って花巻のために何かしたいと思っていて。市民からのニーズが足りてないかも。夢がしっかりある人にはいいかもしれないが、まだ夢を持ってない人に対してのプロセス、アクセスの仕方があっていいのでは。明確な夢とかなく、何も持っていない人が離れていくだけの花巻は寂しい。戻りたいと思えるコンテンツというかが必要。

伊藤) 難しくない伝え方、今何かを持ってない人に対しても発信できるやり方。

青木) 今のは良いと思った。どんな人達が増えていったらいいか、どんな人が喜ばば良いのかというのは、この先を考えるときの大事な視点。どういう人たちが、どういう戦略だと喜んでくれるか。豊島区では明確に子育て世代、と銘打って、どういう視点を持つ子育て世帯にするかを議論した。限定せず年齢で区切るとかでなく、どういうタイプの人が喜んでくれたらいいのか、が語られていると良い。

伊藤) どういう人たちに対してこう思ってるということがどこかにあるといい、ということ？

青木) 未来のターゲットを決めよう、と加藤寛之(株式会社サルトコラボレイティブ代表取締役)が言ってる。どういう人を喜ばせるためにする？地元の人、旅行客、という風に出していかないと対立軸の話にならない。どういうタイプの人達が喜んでいて、そういう人たちが増えているか、ということ視点を置くと行政が進めていくときの意識付けになるのでは。同じものを目指すときにこういう人が増えている花巻がいい、というイメージが共有できるといい。

照井智) 例えば、スクールがあったことで自分から事業を起こした、というのが見えた、という結果があるように、ここで何かをしようと思う人が増えたというものでも良いのかも。

私はもう一つの仕事やり始めてから相談を受けることが特に増えた。やりたい人がいるんだと思う。ここでなにかしたい人は未来にいそうな気がする。

青木) イラストに出てくる要素ってそういう事の方がいいね。タイプの人。こういう人に届くと良いよねっていうのが、イラストの中にここで求めていく人が描かれているといい。

長井) これまでの議論の中で、選ばれるまちになるって話もあったりして。それは、誰に選ばれたいか、〇〇な花巻、ていうのがそのビジョンの裏返し。ビジョンを共有できる人と働きたいし暮らしていきたいっていうことかな。今委員として来ている人や動いている人たち。どういう人たちと一緒に暮らしたいか、一緒に行動を起こしたいか、そういうことの様な気がする。

照井) 小友さんからは。

小友) なんだろう。この資料自体がアップデートしていくものかというのと、そうでもない。

伊藤) リノベまちづくりの目標を引っ張っていくようにしたい。この冊子は3年程度中期的な方向付けをもたらすイメージ。

小友) 本当はアップデートされているのが目に見えるといい。写真に写っている人の年齢層とか系統が寄っている。その人を増やしたいのはあるけど。むしろ、高校生や富士大生とか。今動き始めましたくらいの人達が見えてると良いのかな。

でも同じ資料を数年使うとなると、学生はそこに居続けない可能性もあって移り変わっていくし。そうするとすでに事業やってる人になるのかなと。いったん作って、アップデートがされないとなると、どういうタイプの人を資料に落とし込めばいいかはちょっと出てこない。

伊藤) 若い人たちが何かやろうと思い始めているということはまず言える。いつか帰ってこようと思っていたり関わりを持とうとしている人たちに対して、何かを一緒にやろうと、そういうことを、この構想でいかに伝えていくということだと思う。リノベまちづくりは「何かを一緒にやろう」ということから始まっている。

照井春:参加者) 高校生視点の部分が多いかもしれないが、まちづくりって聞くと難しいなという印象を受けている。リットとか、ジョーズ、マルカン、そこで起こったことがまちづくりに繋がってるんだよ、という興味を持ってもらえる。まちでいつも知っている場所が、そういう事に繋がってたんだと知ること、敷居が低くなって入りやすいと思う。

山崎) それは大事な意見だね。照井さん、真ん中の木ってぱっと見てわかる？

照井春:参加者) 個人的に、三つの輪はウィルキャンニードの輪を連想。そう聞かれるとわからない。

〇〇な花巻は、誰に対しての花巻なのかなと。行政アクション民間アクション公民連携だと、住民主体があんまりない感じ。カルチャーを育む、と言われても、若い世代は花巻のカルチャーがぴんと来ない。祭りくらいしかなくて、カルチャーと言われても「？」となる人が多いのかも。

山崎) 専門用語が多いのかも。普段まちづくりに携わってない人にはピンと来ないのかも。

伊藤) 普段行ってる場所がまちづくりに繋がってるんだという発言は嬉しい。高校生に限らず、私たちの日常のなかでまちを使っていくことがまちづくりに繋がっていくことも、もう少し明らかに伝えていけたらいい。

清水頭) 源泉という言葉はすごくいいと思っている。エネルギーがあふれている、湧き出していく感

じ。県外の人には花巻といえば温泉。木よりは温泉。「〇〇な花巻」という、ワクワク。アイデアが湧くとか、若者が出てくるとか、そういうイメージの方が花巻らしい。エネルギッシュな気持ちや喜び、幸せが生れ出る、そんな源泉のイメージではどうか。木はありふれている。花巻らしさを分かりやすく絵も言葉も作っていくと良い。

青木) 今までプレーヤーがいることで自然に沸き起こっていくのがいいね。参加していくみたいナ。

伊藤) 源泉、混ざり合って、循環していく。若者も年を取った方も、世代も循環し続ける意味合いは示していきたい。ビジョン的な、イメージの部分もそうだし、戦略的に何を取り組んでいくか。今、なりわいとカルチャーを育むというスタイルで進んでいるが、この言葉でなくてもいい。どこを大事にするかというところはどうか。

川村(参加者) 大学生です。この資料を見た時、チャレンジとか発信とか投資とか、結構攻め攻めの言葉。地元に戻ってくるのに、チャレンジするにも知識も経験もないのがネック。でも花巻はスクールやってみんなで学んできた、というのがある。だから、学びながら一緒にやろうという言葉があるといい。

伊藤) そうですね、学びながら一緒に実践したら面白いよね、ということは組み込んで行った方がいいかも。

高橋久) 小友君と同じように、どういえばいいか難しい。子どもたちが帰って来たい場所っていいと思う。もちろんIターンも大歓迎。どこかに移って行ってもまた戻って来たいって大事だと思う。ただ最近の祭りでは、学生はここ最近参加者が少ない。関係性が変わってきてるのかな。ちょっとづつ子供と地域とが離れてきているところはある。どうやって思い出をこの花巻でつくって、将来もここに住みたいと思っていくのかを考えると、今この冊子を彼らが読み込むことが出来るのか、ターゲットをどうするかは大事。キャッチフレーズについてはリノスクでの言葉を使っていいものかどうか悩む。一歩進もうという人たちにとっては参考になりそうな冊子だけど、高校生ははじめ芽にも気付いてない人達に対しどう伝わっていくか。後者のほうが大事な気がする。自分で動ける人でなく、埋もれている人たちにに向けた発信がここにあって、花巻市民に聞けば誰でもこの事業が分かる、ということが大事なのかな。

伊藤) 事業やビジネスには、まちの姿を思い描きながら、思いを持ってやっているんだということを伝えたい。そういうことをわかりやすく整理できるような冊子。どういう思いを持っているかということをもまずは整理したい。岡崎さんが言った言葉。コーヒー屋さんの話。おいしいコーヒーを作りたいというコーヒー屋と、まちのために開こうというコーヒー屋があって、おいしいコーヒー屋のほうの結果的にはまちを良くする。そのコーヒー屋が地域の課題をちょっとお手伝いすることで、コーヒーも爆発的に売れ出す、という例え。そういうところに公民連携、行政と一緒にやっていくアクションがある。そこにかみ合っていくという話は行政側の意図としてはある。

山崎) このサマリーの2枚は市役所の内部で分かりやすくするために作られていて専門用語が多いのかな。ビラで配るためには設計されていない。高校生・大学生にだったら別のやり方がいいだろう。

青木) 2枚のサマリーは表はワクワクしているけど裏がつまらないということだと思う。わかりづらい。言葉は委員みなさんから出てきた方が絶対分かりやすいので、どんどん意見が出てきたほうがいい。

〇〇な花巻と言って、「わく」という言葉をみんな言っている。役所と共有する言葉とすれば、「わく」

が良い。その結果何を生み出すかといったら次の担い手のこと。「わく」ということも次の担い手がどんどん湧いてくることを求めてこれを作っていくと思う。ずっと同じメンバーが載っているのは違和感はある。新しい担い手がどんどん増えていくことが可視化されていた方がいいし、そういう意味では湧き育つ花巻という言葉が、表にガンと載ってるのが良い。せっかくだから WEB サイトとかにサマリーも冊子も情報が載っていて、いつでも立ち戻れて、サイト上ではアップデートされていて発信され続けていて、ずっとこれを自分たちが大事にしていくものとして、時代の変化や取組の状況も更新され続けていけばよいのでは。

長井) 以前の会議にもあったが、余白やスペースを吹き込んで絵を未完成にして空白を設けて、この余白を次にあなたが埋める、とするのはどうか。余白をどう埋めるのか。埋め方は自由だけど、というように。

伊藤) イラストは、ラフに仕上げ、さし色はするかもしれないが基本モノクロ。更新していくやり方は必要だし、立ち返るものと合わせて必要だと思っている。このビジョンブックというのは立ち返るところの位置づけになるのかな。立ち返るときの材料として必要なものが、デザインはともかく、言葉が行政寄りになっているということであれば、どういう言葉で表現したいか聞いておきたいし、ワクワクする感じをどう伝えたら、次の世代に言いやすいか、誘いやすいかという発言をもらいたい。

佐々木) 源泉のイメージに同感。こうしたいというイメージがうまくいかないのもどかしい。例えば BonD に委託するとか、デザインできる人がいるとか。私たちが作りたい花巻の未来は、言葉で伝えてもキャッチする人と合わせないとイメージが合わないのではないか。デザインのところなのかな。

山崎) イラストレーターさんが必要だね。本当は話しながら書いているくらいが良い。

清水頭) 青木さん、山崎さんが言ったように回を重ねるごとにズレてきている感。市民に分かってほしいのか、行政向けなのか学生に向けているのか。すごく幅があってあっちこっちを考えないといけないと混乱してしまう。

小友) これを何のために作っているのかを毎回最初に繰り返してほしい。我々は数か月ぶりに思い出す。とにかく一端頭を揃えて議論しないとズレます。

高橋久) 私もズレてしまってたらすいません。何を目的にしているか。今までのことを整理ということなら、この形式もあるかと。

小友) 説明できてないんじゃないくて、ズレがそもそもある前提で進めていくということ。毎日考えている人とそうでない人ではズレるのは当然。

伊藤) これはリノベまちづくりとはなんであるかを説明するための資料。

ひとつのイメージを共有しながらそれぞれに進めていくという不思議なやり方ではあるが、今後理解が進みうまくみ合わせて進めていくためのものとしたい。事業者の方々はそれぞれバラバラながらも、好きなことをとおしてまちのひとを幸せにしようとしている。まちの幸せのし方にはいろいろな試行錯誤があって、地域循環だったり若い人と繋がって自分のノウハウを教えてあげたり。このブックで、そういうリノベの趣旨を説明できることが一つ。

小友) そういうのを3枚程度にまとめておいて読めるようにしておく。目的、閲覧者とか確認してから議論に入った方がいい。思い出させてくれるステップが欲しい、思考が継続していないので、事務局と参加者のモチベや情報量の違いがあるのではない。

伊藤) なるべく早くフィードバックする。リノベーションのこういう考えがまちを豊かにするということが一つと、どんなひとに届けたいですか、どんなやりかたで誰に伝えたいか、というのが2枚目、今日はこの方向を確認したかった。

青木) 議論の中で出ていたのでは。皆さんは次世代に伝わるものにしたいし、学生はこれをみたおかげで、戻ってくるきっかけになってほしいと思っている。

遠藤) 今日、こういうのを初めて聞かせている学生がいる。あとでどう思ったか確認して報告する。

伊藤) 書き方はあれかもしれないが、大切にしている要素はここに入っていると思ってよいか。なりわいとカルチャーという2軸を戦略と置くことへの違和感とか。

山崎) 意見はいただいている。今回はいったん締めて、次回 MTG で事前に資料投げて作ってもらいましょう。

(5) 閉会

照井) 次回について。

伊藤) 次回は来年の2月20日の午後。丸一日ではないが、午後半日夕方の時間確保をお願いします。その前に小規模でミーティングを入れさせてください。別途調整します。

照井) 以上で終わります。長時間にわたってお疲れ様でした。ありがとうございました。

19:15 終了

(以下、参加者によるチャットの意見：抜粋)

- 1、花巻に情報発信センター、見える化の場をつくってほしい。市民の誰もが知らない。老若男女にわかりやすく情報発信する知恵が必要。
- 2、素晴らしいアイデア、花巻らしさをどう生かしたいか？花巻の歴史（特に現代史）・文化。先人を知ることによってイメージがわくと思います。そういう取り組みをしてほしい。現代史をすることで未来がみえる。
- 3、（自分が育ったまちのことに對し）インプットが足りないのを感じている。
- 4、学びの意欲はあっても、花巻には講座やサークル、イベントの情報がわかりやすく集約して、発信している所やサイトがないと思います。
- 5、（自分の地域の）祭はちょっと衰退しています。小学生の時祭りに参加していた方達が戻って来なく、やったことがない人達が残し、手伝って欲しいと今更言われてもという方が多いのが現状です。子ども達にどれだけ楽しく思い出をもって旅立ってもらえればと思います。
- 6、上町やマルカンデパートの前も人が歩いていない。花巻は完全に車社会。歩行者が腰掛けるベンチや休む所がない。まずは歩く人に優しい町になってほしい。
- 7、余白は重要。若い子たちの視点から見ると入り込み辛いところがあると思います。